

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

<p><b>[めざす学校像]</b></p> <p>1 「<b>質実剛健</b>」にして「<b>文武両道</b>」に励む生徒を育てる学校                  2 母校への誇りと地域への愛を持ち続ける生徒を育てる学校                  3 「<b>骨太の人格</b>」を備え 21 世紀を支える人材をつくる学校</p>		<p>（質実剛健：夢実現のため躊躇せず挑戦しへこたれず諦めず地道に努力する気質                  文武両道：勉強にも部活動にも行事にも真剣に全力で取り組むこと                  骨太の人格：基本がしっかりとっていて決してぶれない心と体</p>
<p><b>[生徒に育みたい力]</b></p> <p>○ 夢と志を語る力（社会に貢献する自分を想像する力／目標を具体的に語る力）                  ○ 努力し続ける力（全力で学び続ける力／貪欲に挑戦し続ける力）                  ○ 人権を尊重し人と繋がる力（仲間をつくる力／仲間を支える力／仲間を率いる力）</p>		
<p><b>[教職員に望む力]</b></p> <p>○ チームの一員として自らの役割を自覚し「生徒に育みたい力」を身につけさせる力（豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性）</p>		<p>（夢：将来実現させたいと思い描いている願い                  志：心に思い定めたある方向をめざす気持ち</p>

### 2 中期的目標

<p><b>1 「夢と志を語る力」の育成</b></p> <p>(1) 系統的進路指導（なりたい自分から逆算する指導／大学入試改革への対応） ⇒ <u>進路指導満足度 H29 年度 76%を 2020 年度には 90%</u>                  (2) 同窓会の人的資源活用のさらなる推進                  (3) 大教大教職コンソーシアム事業への参加促進／有識者による講演の充実                  (4) アドバンス教育コースの充実                  (5) 進路実現満足度の向上 ⇒ <u>H29 年度 41%を 2020 年度には 70%／その結果、国公立大現役進学者数 H29 年度 36 を 2020 年度には 100</u></p>
<p><b>2 「努力し続ける力」の育成</b></p> <p>(1) 高い部活動入部率の維持 ⇒ <u>2020 年度まで 90%以上の維持（H29 年度 86.8%）</u>                  (2) 課外学習時間の増加 ⇒ <u>H29 年度（1 月）平均 1 時間 31 分／人を 2020 年度には同 1 時間 50 分</u>                  (3) 講習等（ロングラン勉強会含む）参加講座数の向上 ⇒ <u>H29 年度平均 7.2 講座／人（3 年生）を 2020 年度には 10 講座／人（3 年生）に</u>                  (4) スタディサポート 2 年 10 月時点成績の向上（2 年生時点での成績の落ち込みを最小限に抑える）                  (5) 「主体的・対話的で深い学び」を充実するための教育環境整備 ⇒ <u>1・2 年生普通教室全室への短焦点型プロジェクターの設置 H30 年度中完成</u></p>
<p><b>3 「人権を尊重し人と繋がる力」の育成</b></p> <p>(1) 学校教育自己診断生徒会行事への積極的取組姿勢肯定率の向上 ⇒ <u>2020 年度まで 90%以上の維持（H29 年度 91.5%）</u>                  (2) 高い部活動入部率の維持 ⇒ <u>2020 年度まで 90%以上の維持</u>                  (3) 地域、学校園等関係機関と連携した活動の充実                  (4) 人権教育・教育相談活動の充実といじめ防止</p>
<p><b>4 「チーム八尾高」を支える教員力の向上</b></p> <p>(1) 学校経営計画中期的目標を踏まえた目標設定（全教職員）と PDCA サイクルを意識した業務の推進                  (2) 若手教員を育てる OJT の充実と教職員間のコミュニケーションのさらなる活性化                  (3) 授業力向上のための取組の充実 ⇒ <u>授業アンケート「授業満足度」H29 年度平均 3.16 を 2020 年度には 3.5 に</u>                  (4) 業務の効率化と時間の有効活用（生徒と向き合う時間の拡充）                  (5) 高大接続改革への対応と大学入学者選抜改革を見越した改革の継続</p>

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 1 2 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b>                      36 項目中 34 項目で肯定率向上（内 10P 以上向上した項目が 6）</p> <p>◆<b>授業・学習支援に関する 2 項目で大幅な向上（10P 以上）</b>                      「先生は、生徒が意欲的に取り組めるよう、授業の工夫をしている」                      H29：61.4→H30：75.2                      「授業に関する質問や勉強方法などについて相談できる先生が多い」                      H29：67.3→H30：78.2</p> <p>◆<b>人権教育に関する 2 項目で大幅な向上（10P 以上）</b>                      「平和や人権について学ぶ機会がある」                      H29：55.3→H30：68.3                      「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」                      H29：59.5→H30：72.3</p> <p>・授業力向上や進路指導充実に関する地道な努力が奏功した                      ・学校教育自己診断（教職員）結果の向上との相関関係がある                      ・これらの成果としてセンター試験得点率過去最高を記録                      ・人権教育については評価指標の目標数値を達成</p>	<p><b>【第 1 回】5 月 14 日</b></p> <p>◆<b>進路指導関係</b>                      ・文武両道が看板の八尾高校は大学入試改革にも強いはず                      ・大学進学に止まらずその後の人生も視野に入れる指導方針を支持する</p> <p>◆<b>学校広報関係</b>                      ・部活動を頑張っている「文武両道」の中学生に入学してほしい                      ・進学実績だけではなく学校の魅力をしっかりアピールしてほしい                      ・プロジェクターや AL 用テーブル等施設も魅力として示してほしい</p> <p>◆<b>地域連携等</b>                      ・小学生等地域学校園との交流は本校生徒にとっても得難い経験になる                      ・春に校内の桜並木を地域の方々に見てもらおう企画はどうか                      ・時間の活用法や生活習慣の指導でまだまだ伸びる生徒がたくさんいる</p> <p><b>【第 2 回】10 月 29 日</b></p> <p>◆<b>学校改革</b>                      ・カリキュラムマネジメントを考える会で画期的な学校改革を望む                      ・授業力向上研修は堅苦しくならないよう和気藹々と実施した方がよい                      ・体育祭の 6 月移行は健康安全面だけでなく若手教員にも良い勉強の機会</p> <p>◆<b>「総合的な探究の時間」関係</b></p>

## 【教職員】

40 項目中 22 項目で肯定率向上（内 10P 以上向上した項目が 11）

◆授業・学習指導・進路指導に関する 4 項目で大幅な向上（10P 以上）

「授業力向上について日常的に話し、教科等で対策を検討している」

H29：47.5→H30：74.5

「授業力向上に関する研修の機会を設けている」

H29：47.5→H30：74.5

「学習到達度の低い生徒に対する指導や取り組みが行われている」

H29：61.0→H30：74.1

「授業アンケートの結果を、自らの授業改善に活用している」

H29：76.3→H30：89.1

- ・教員を生徒役にした授業力向上研修が教員の意識改革に影響
- ・授業アンケート結果を校長通信「雑感」で周知したことも一因

◆学校運営に関する 7 項目（新規除く）すべてで向上（10P 以上は 5）

「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」

H29：45.8→H30：94.5

「学校運営に教職員の意見が反映されている」

H29：44.1→H30：70.9

「校長は教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」

H29：57.6→H30：100.0

「教職員が日常的に課題を共有し解決に向けて協力する体制がある」

H29：37.3→H30：54.5

「学校全体に関わる課題の解決に向けた対応が迅速かつ円滑である」

H29：42.4→H30：58.2

- ・カリキュラムマネジメントを考える会の議論を学校運営に反映
- ・校長の方針は校長通信「雑感」で随時教職員に浸透
- ・ボトムアップを推奨し明確な判断を示す決裁過程が定着

## 【保護者】

37 項目中 20 項目で 85%以上の高い肯定率

◆向上した項目は【生徒】【教職員】と高い関連性

「全ての教育活動において人権を尊重する姿勢で指導にあたっている」

H29：89.4→H30：89.7

（【生徒】で 10P 以上向上）

「学力向上や進路実現に向けた学習支援が活発に行われている」

H29：83.4→H30：87.2

（【生徒】【教職員】とも大幅に向上）

- ・各種取組の成果が保護者にも伝わった結果としての高い肯定率
- ・肯定率が相対的に高い中更なる向上のためには広報充実が必須

- ・プレゼンはまず校内で大会を開くことから始めてはどうか

◆学校広報関係

- ・八尾高校は学力の 3 要素を伸ばせる学校であることをもっと広報すべき
- ・大学入試改革への対応にも取り組んでいることをアピールすべき
- ・生徒作成のパンフは優しく温かい雰囲気が出る秀作になっている

◆平成 31 年度当初人事に関する意見・要望

- ・校長の推進する学校改革の方向性に賛同する教員を配置してほしい
- ・スポーツ楽しさを伝えることができる指導者にきてほしい
- ・専門的な知識や技能を持った部顧問にきてほしい

【第 3 回】2 月 22 日

◆学校広報関係

- ・私学専願で受験する中学生が増加する状況に鑑みて広報すべき
- ・選抜試験問題が国数英とも C というのはハードルが高い
- ・八尾高の文武両道が大学入試改革で求める学生像であることを訴えてほしい
- ・地域の教育産業は八尾高のことを面倒見の良い進学校とみている
- ・71 期生の高い進学実績は教員の面倒見の良さに起因するところ大
- ・勉強だけ部活動だけという高校時代はバランスを欠いている
- ・八尾高校の文武両道は勉強と部活動の両方を真剣に頑張り抜くということ
- ・他校の文武両道とは違うこういった特色をもっとアピールすべき
- ・保護者にハッシュタグをつけて情報発信してもらうなど SNS の活用も有効
- ・八尾高校は体育が厳しいという認識が中学生の間にあるがこれは全くの誤解

◆進路指導（進学実績）関係

- ・国公立大学も推薦入試枠を増やす方向性
- ・教職をめざす生徒に八尾高の魅力をもっとアピールすべき

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「夢と志を語る力」の育成	(1) 系統的な進路指導 (2) 同窓会の人的資源活用のさらなる推進 (3) 大教大教職コンソーシアム事業への参加促進 (4) アドバンス教育コース充実 (5) 進路実現満足度の向上	(1) 「八尾高スタンダード」を改訂し目標に至るスモールステップと個々の取組における out come を明確化/年度末に成果検証と見直しを実施する (2) 進路支援につながる新事業を企画 (3) 大教大教職コンソーシアム事業参加生徒がその成果を発表する機会を設定する (4) コース内容と成果の周知徹底 (5) 系統的な進路指導システムの中で個々の取組の out come を意識した指導を行う/教員の授業力向上のための実践的な研修を行う/同窓会等の協力のもと生徒が夢や志を語る機会を設定する/スタディサポートの結果を有効活用しデータに基づく進路指導を徹底する	(1) 学校教育自己診断(生徒)の「進路指導満足度」を82%以上に(H29:76%) 「八尾高スタンダード」の改訂 国公立大学現役合格者数60 (H29:36) (2) 年度内に立ち上げ (3) 大教大教職コンソーシアム事業参加生徒数の増加(H29:延べ26人) (4) 学校教育自己診断(生徒)「コース満足度」90%以上維持(H29:92.9%) (5) 「八尾高スタンダード」改訂作業の中で進路指導のあり方を議論する機会を設定(前期に3回) 進路実現満足度60%(H29:41%)	(1) <u>進路指導満足度</u> →80.5% △ <u>八尾高スタンダード</u> →改訂 ○ <u>国公立大現役合格者数</u> →53人 △ センター試験得点率は過去最高 (2) <u>進路支援に同窓会活用</u> →LongRun 勉強会に卒業生(大教大生)招聘 △ (3) <u>教職コンソーシアム</u> 参加生徒数32名 (目標:27名以上) ◎ (4) <u>コース満足度</u> 満足度89.0% (目標:90%以上) △ (5) <u>進路指導のあり方議論</u> 「カリキュラムマネジメントを考える会」を立ち上げ9回開催 進路実現満足度向上のため2022年度カリキュラム案を策定 ◎ 進路実現満足度 ◎ →85.2%(目標:60%)
2 「努力の継続力」の育成	(1) 高い部活動入部率の維持 (2) 課外学習時間の増加 (3) 講習等(ロングラン勉強会含む)参加率の向上 (4) スタディサポート2年10月時点成績の向上 (5) 「主体的・対話的で深い学び」を充実するための教育環境整備	(1) 部活動体験に特化したオープンスクールの新規実施/長期休業中部活動事故対応マニュアルの整備/オープンスクール等における部員の活用 (2) 学習時間調査結果を活用した啓発活動の展開 (3) 講習等のねらいを「八尾高スタンダード」に明記し教員が生徒に対してこれまで以上に積極的な働きかけを実施/講習等参加生徒の感想をホームページ等に掲載するなどの広報活動を強化し生徒のみならず中学生にもアピール/ロングラン勉強会への同窓会の協力を要請し若手卒業生を生徒の「憧れモデル」とする取組の推進 (4) 中だるみを防ぐためノースマホ day を実施する/保護者懇談でスタディサポート結果を活用 (5) 短焦点型プロジェクターを1年生全普通教室に設置し「主体的・対話的で深い学び」の充実に資する	(1) 入部率90%以上の維持 (H29年度86.8%) 部活動体験に特化したオープンスクールの新規実施(年度内) (2) 学習時間調査で課外学習時間を平均で10%向上(H29:1時間31分) (3) 講習等(ロングラン勉強会含む)参加講座数平均を8講座/人(3年生)にする (H29:7.2講座/人) (4) スタディサポート2年10月時点成績のA区分以上の生徒数を5%向上 (H29:29.3%) (5) 短焦点型プロジェクターを1・2年生の全普通教室に設置(学校経営推進費事業・PTAからの寄付)	(1) <u>入部率94%</u> (目標:90%以上) ○ <u>部活動に特化したオープンスクール</u> →10月に開催した他夏休みに部単位の体験企画を実施 ◎ (2) <u>課外学習時間</u> →19%増1時間48分 (目標:1時間41分) ○ (3) <u>講習等参加講座数平均</u> →10.3講座 (目標:8講座) ◎ (4) <u>スタサポ2年10月</u> →A区分以上41.7% (目標:34.3%) ◎ (5) <u>短焦点型プロジェクター</u> →10月に設置完了 ○
3 「人権を尊重し人と繋がる力」の育成	(1) 主要学校行事平均満足度の向上 (2) 高い部活動入部率の維持 (3) 地域、学校園等関係機関と連携した活動の充実 (4) 人権教育・教育相談活動の充実といじめ防止	(1) 生徒主体の主要学校行事(文化祭・体育祭・マラソン大会)企画・運営をより一層推進する (2) 2(1)に同じ (3) 地域コミュニティセンターとの連携促進/地域学校園との交流促進 (4) 人権教育の充実/教育相談係会の機能強化(個別の支援計画の作成主体として学年と連携)/いじめ防止委員会の定例開催と迅速正確な事象対応	(1) 学校教育自己診断(生徒)の「生徒会行事積極的取組姿勢肯定率」を90%以上に する(H29:90%) (2) 2(1)に同じ (3) 地域、学校園等関係機関との連携事業実施回数を前年度以上に する (4) 学校教育自己診断(生徒)の「人権教育肯定率」を65%以上に する(H29:57.1%) / 学校教育自己診断(生徒)の「いじめ対策満足度」を80%に する(H29:71.3%)	(1) 生徒会行事肯定率 →92.8% (目標:90%以上) ◎ (2) <u>入部率94%〈再掲〉</u> (目標:90%以上) ○ (3) <u>連携事業実施回数</u> →20回 (29年度:11回) ◎ (4) 人権教育肯定率 →68.3% (目標:65%以上) ○ いじめ対策満足度 →81.3% (目標:80%) ○

## 府立八尾高等学校

<p>4 「チーム八尾高」を支える教員力の向上</p>	<p>(1) 学校経営計画中期的目標を踏まえた目標設定（全教職員）とPDCAサイクルを意識した業務の推進</p> <p>(2) 若手教員を育てるOJTの充実と教職員間のコミュニケーションのさらなる活性化</p> <p>(3) 授業力向上のための取組の充実</p> <p>(4) 業務の効率化と時間の有効活用（生徒と向き合う時間の拡充）</p> <p>(5) 高大接続改革への対応とを見越した改革の継続</p>	<p>(1) 校長通信「雑感」による中期的目標進捗状況についての情報共有</p> <p>(2) 若手教員による自主研修の実施／教務室にスタンディングテーブルを設置し教職員の情報交換の拠点にする</p> <p>(3) 互見授業月間中に初任者を対象とした研究授業を実施／工夫のある授業等を校長通信「雑感」で紹介／ICTを活用した授業に関する研修への積極的な参加</p> <p>(4) 広報活動の効率化促進／会議時間の短縮／成績処理システムの改善</p> <p>(5) 英語資格試験への対応／大学入学者選抜改革に関する研修会の開催</p>	<p>(1) 学校教育自己診断（教職員）の「学校課題の共有と教職員の協力体制」肯定率を45%にする（H29：37.3%）</p> <p>(2) 若手教員自主研修の開催（3回）スタンディングテーブル設置（前期中に実現）</p> <p>(3) ICT活用授業実践教員の率を40%に（H29：26.3%）授業アンケートにおける「授業満足度」を3.2以上に（H29：3.16）</p> <p>(4) 3項目以上で業務の効率化</p> <p>(5) 英語資格試験受験者数の増加（H29：298人）／大学入学者選抜改革に関する研修会の開催（年度内）</p>	<p>(1) 課題の共有協力肯定率→54.5%（目標：45%）◎</p> <p>(2) 若手教員自主研修→1回（授業力向上）（目標：3回）△ スタンディングテーブル→教務室内に設置◎</p> <p>(3) ICT活用教員数→52.7%（目標：40%） 授業満足度→3.2（目標：3.2）◎</p> <p>(4) 業務効率化→3項目以上で実施 中学校訪問廃止 学校説明会申込廃止 行事日の広報活動 職員会議のICT化等（目標：3項目以上）◎</p> <p>(5) 英語資格試験受験者数→690人（目標：299人以上）◎</p>
---------------------------------	--	--	--	--